



約20年前に、荒れた土地に森を再生するところからスタートしたハウステンボス様。環境先進国であるオランダに学び、土壌を入れ替え、40万本の樹木を植え、運河をつくって海水を引き込むなど、およそ5年の年月をかけて街を造りあげました。1992年のオープン以来、「森の家」という意味を持つその名が示す通り、人と自然の共存を目指す滞在型リゾートとして広くその名を馳せています。オランダにある宮殿や建物、街頭の紋章に至るまで忠実に再現した街並みは、ハウステンボスで生活する人々や訪れる人々に、心のゆとりや上質のくつろぎを提供しています。



ハウステンボス株式会社  
パーク事業本部 施設運営部 部長 三宅良二様と、同  
事業本部 施設運営部 次長 兼 アミューズメント二課  
課長 神村忠男様にお話を伺いました。

## 4K “SXR” プロジェクター お客様事例 ハウステンボス株式会社様

SRX-R110 エンターテインメント

70ミリフィルム作品をデジタル化し、4K “SXR” で上映。  
1、2位を争う人気アミューズメントがさらにシャープな  
映像に

### お客様のニーズ・課題

フィルムで上映していた人気の立  
体映像アミューズメントをデジタ  
ル化。3Dを駆使した映像の迫力を  
活かすことができ、かつ将来性の  
高いシステムを求めていた。

### 導入効果

3D映像を実現するには、2台の映  
写装置のシンクロが必要。4K  
“SXR” によりフィルム時代にあ  
った投影映像のブレがなくなり、  
シャープな立体映像が実現した。



### 導入背景

オープン以来の人気を誇るア  
ミューズメント作品をデジタ  
ル化。

今回、4K “SXR” を導入した3Dシアター「ミステリアスエ  
ッシャー」は、ハウステンボスのオープン当初から提供して  
いるアミューズメントです。20世紀のオランダを代表する鬼  
才版画家として有名なエッシャーの抽象的概念の世界を、世  
界初のコンピュータグラフィックを使った3D映像としてご  
案内し、施設内でも1、2位を争う人気を誇ります。  
従来は70ミリフィルムで上映していましたが、オープンより  
十数年を経て設備の交換時期を迎えたこともあり、設備の  
入れ替えとともに映像のデジタル化を行うことになりました。  
デジタル化に踏み切った理由として、デジタルハイビジョン  
放送およびハイビジョンテレビなどの急速な普及によって、  
家庭で手軽に高画質映像が楽しめるようになり、人々の  
映像を見る目が豊になってきたことがあげられます。さら  
に、「ミステリアスエッシャー」のような完成度の高い作品  
は、デジタル化した方が将来における汎用性が高まると  
判断したことも理由の1つです。(三宅部長)



エッシャーの摩訶不思議な世界を3D  
シアターと展示作品で体験する「ミ  
ステリアスエッシャー」。

### 選定理由

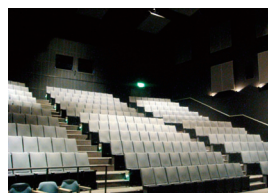
フルHDの4倍を超える高解  
像度と、将来性の高さが選  
択の決め手。

ソニー製のデジタルプロジェクターの映像を始めて見たの  
は、2005年に開催された「日本国際博覧会 愛・地球博」で  
した。“SXR” デバイスを使ったプロジェクターではありませ  
んでしたが、2005インチ型（縦約10メートル×横約50メー  
トル）の超ワイド大型スクリーンに上映された600万画素の  
映像は、高精細かつ色鮮やかで、臨場感あふれるものでした。  
投影映像に対して実物を肉眼で見ているようだったのは  
そのときが初めてです。それと「ミステリアスエッシャー」  
では上映館の規模が異なりますが、デジタル化への不安が  
払拭されたと感じました。



エッシャー作品を3次元で再現し  
たエントランス。

機器の選定は開発部門に任せましたが、他社製品とも比較  
検討したうえで、4K “SXR” を選定したと聞いています。4K  
“SXR” はフルHDの4倍を超える885万画素の高解像度で、  
豊かな色の再現性を持ちます。将来において、たとえば3D  
ムービーに風やミストなどの特殊効果をプラスした4Dのア  
ミューズメントにしたい場合でも、十分に活用できる性能  
であると判断しました。(神村次長)



256席の3Dシアター。

## システム内容

映写室の2台の4K“SXR”から560インチスクリーンに立体投影。

70ミリフィルムの作品をテレシネ変換しています。映写室には、送出用のHDCAMを納めた制御用ラックとSRX-R110を2台設置し、シアター前方の560インチのスクリーンに向けて立体映像投影を行っています。制御装置は既存のシステムをそのまま利用し、音響制御や映像制御、システムのオン・オフ制御もあわせて管理しています。(三宅部長・神村次長)

## 導入効果

ブレのないシャープな立体映像の実現と2灯ランプシステムを評価。

デジタル化された現在の「ミステリアスエッシャー」は、2006年7月から公開されています。4K“SXR”による映像を初めて見たときには、画質が非常にシャープだと感じました。立体映像は2台の映写装置を使って実現しますが、フィルムだと映写時に微妙なブレが生じ、画質が劣化してしまいます。デジタル映像ではこれが完全にシンクロし、4K“SXR”の高精細さとあいまって高い臨場感を得られます。特に、毎日コンテンツを見ているスタッフには好評でした。また、「ミステリアスエッシャー」が好きでよくハウステンボスを訪れるというお客様から、「非常に映像がクリアになった」という感想をいただくと共に、社内からは「登場人物が履いている木靴の底の汚れまで見えるようになった」という感想を聞いています。



2台のSRX-R110により立体映像を投影する。

性能面では「2灯ランプシステム」を評価しています。4K“SXR”1台につきキセノンランプ1灯、72%出力で使用していますが、あらかじめこのようなモード設定が簡単に行えるように設計されていたのが嬉しいですね。ランプの寿命が延びるとともに、万が一投影中に1灯のランプが切れてしまっても残りの1灯で投影を続けられます。現在は、2灯のランプを自動的に交互に使用するよう設定しています。(神村次長)

## 今後の展望

トータルコストの削減を目指し、5年後、10年後の結果に期待。

作品をデジタル化して機器類を入れ替えたのには、老朽化の問題だけでなく、ランニングコストなどのトータルコストメリットを考えてのことです。まだ使用を開始したばかりでテスト的な時期ですが、5年後、10年後にメリットとして実績ができることを期待しています。(神村次長)



送出用のHDCAMを納めた制御用ラック。

ハウステンボスでは今後も、完成度の高いアミューズメント作品をデジタル化していく予定です。その際に諸条件があれば、4K“SXR”を増設する可能性も考えられますね。そのためにも、ソニーさんにはさらなる性能の向上に取り組んで欲しいと思います。(三宅部長)

4K“SXR”プロジェクターの商品情報やお客さま事例をご覧ください。  
<http://www.sony.co.jp/SXR/>

ソニーマーケティング株式会社 / 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

商品に関するお問い合わせは

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588

●FAX 0120-333-389

●受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日、および年末年始は除く)

2008年3月現在